



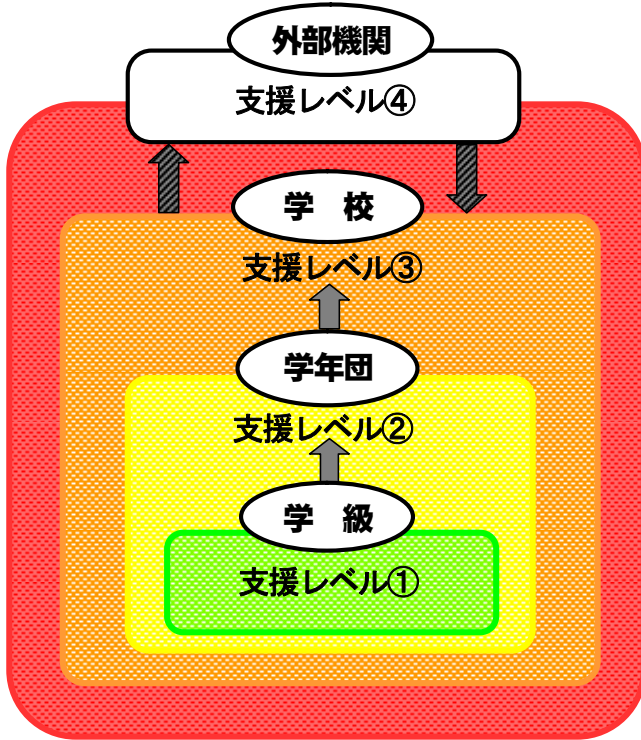
確かな学力の向上をめざして【10月】

■校内支援体制について～支援レベルを活用して～

一人一人の児童生徒のニーズに対応するためには学校全体で取り組むことが大切です。支援の基本は担任ですが、児童生徒のつまずきの要因は様々です。

まず、校内委員会等で児童生徒の支援レベルを明確にした上で、具体的に支援方法を検討することが必要です。その際には、**中部地区 支援レベル表**を活用しましょう。

- 支援レベル①：学級内で担任を中心とした支援で対応が可能なケース
- 支援レベル②：同学年や学年部などで支援体制を組むことが必要なケース
- 支援レベル③：校内全体で支援体制を組んでの対応が必要なケース
- 支援レベル④：外部の専門機関に支援を依頼することが必要なケース



【中部地区 支援レベル表】

校内委員会

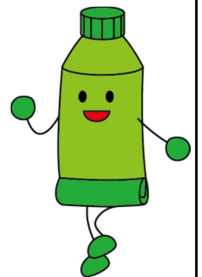
- ・校内の支援状況の情報を集約し、個々の支援の方向性の確認（支援レベルの検討と整理）
- ・事例について検証し、具体的な支援の検討
- ・支援の評価と見直し
- ・外部の専門機関との連携を検討
- ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」が作成されていない場合、必要かどうかの検討

実態把握

- ・前年度の記録の引継ぎ ・教研式知能検査
- ・Q-U ・学力テスト ・実態把握チェックリスト 等

目標設定・支援の検討

- ・関係者で**支援チーム**を組織し、課題の共有
- ・課題の中から優先順位を考え、担任や児童生徒にも分かりやすく、達成可能な目標を設定
- ・当面取り組むこと(いつ、誰が、どんな支援)を明確にし、即実践
- ・事例検討会も有効



支援の評価と見直し

- ・実践したことや効果的だった支援等を記録に残しておく
～記憶より記録を！～
- ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の活用

外部の専門機関

- ・LD 等専門員
- ・倉吉養護学校支援部
- ・通級指導教室
- ・医療、福祉、労働等の関係機関